

新熱帯牧草ブリザンタの周年短草利用による低コスト子牛生産技術の開発

1 中核機関・研究総括者

(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構
九州沖縄農業研究センター 中西 雄二

2 研究期間

2004～2007年度(4年間)

3 研究目的

土地基盤の弱い沖縄では多頭化に対応できる既存の草種より高収量で高品質な牧草の導入・利用が強く要望されている。先進農家の熱帯牧草の周年短草利用により肉用子牛の低コスト生産を実践している技術シーズを活用し、沖縄の既存の牧草より高品質で高収量が見込まれるブラジル産熱帯牧草ブリザンタの実際規模での草地造成を行い、その生育特性、栄養特性および放牧特性を解析し、ブリザンタを利用した低コスト肉用子牛生産技術を開発する。また、ブリザンタ普及のための栄養茎繁殖による省力的草地造成法も開発する。

4 研究内容及び実施体制

- ① ブリザンタの周年利用技術の開発((独)九州沖縄農業研究センター、小浜島肉用牛生産組合、竹富島肉用牛生産組合)
沖縄特有の土壌である国頭マーヅおよび島尻マーヅにおける、ブリザンタの生育特性、栄養特性および放牧特性を明らかにし、ブリザンタを利用した低コスト肉用子牛生産技術を開発する。
- ② ブリザンタの省力的草地造成法の開発(沖縄県畜産試験場)
ブリザンタ栄養茎のセル苗移植による省力的草地造成法を開発するとともに、ブリザンタの種子稔性を調査し、種子繁殖の可能性についても検討する。

5 目標とする成果

新熱帯牧草ブリザンタの利用技術が確立される。これにより、粗飼料自給率100%の安全・安心な低コスト・省力的肉用子牛生産技術として、沖縄地域への普及が期待される。